

長崎の林業

小曾根星堂書



福岡市で行った「原木しいたけフェア」の様子（対馬）

3

目次

- 林業普及指導員特集号【令和5年度 林業普及指導員 活動報告】
 (長崎指導区)
 林業の成長産業化による森林の多面的機能発揮と
 持続可能な森林経営の実現に向けて 2~3
- (長崎指導区 島原分区)
 安心・安全・スマートな林業に向けて
 ~定着率の向上と機械化の取り組み~ 4~5
- (県北指導区)
 若者から『選ばれる』県北の林業に向けて 6~7
- (五島指導区)
 五島市産間伐材の島外出荷に向けた取り組み 8~9
- (対馬指導区)
 担い手の確保・育成に向けた取り組み 10~11
 令和5年度林業普及指導員活動報告について 12

「長崎の林業」は、
ながさき森林環境
税により発行して
います。



2024
No.817

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林業の成長産業化による森林の多面的機能発揮と持続可能な森林経営の実現に向けて(長崎指導区)

これまでの取組

長崎指導区は、長崎半島、西彼杵半島及び県中央部の4市5町が普及活動地域です。

森林資源を活用した持続的経営のために、森林経営計画の作成支援と確実な森林整備の実行指導をはじめ、更なる低コスト化に向けた路網整備や効率的生産システムの確立、ICT等を活用した省力化技術普及を促進しています。

このことから、地域の取組を踏まえ、林業の成長産業化による森林の多面的機能の発揮と持続可能な森林経営を実現していくことを基本的課題とする「第3期ながさき農林業・農山村活性化計画」により、「構想の策定と実現への支援」「林業経営体への支援」「人材の育成・確保」「効率的な作業システムと路網による低コスト化」「ICT等を活用する「スマート林業」の実践」を主体的に取り組みました。

構想の策定と実現への支援

「森林経営管理制度」の実行支援

当指導区では、市町が経営管理権を取得したうえで、令和5年度は5市町において約42haの保育間伐等の森林整備に取り組まれています(表)。

表 森林経営管理事業による森林整備実施予定

地区	実施予定面積
A市	約21ha
B町	約2ha
C町	約3ha
D町	約6ha
E町	約10ha
計	約42ha

実行支援に当たっては、普及員が各市町担当者や地域林政アドバイザーと連携し、対象森林の絞込みのための情報提供や経営管理権集積計画の作成指導、市町村森林経営管理事業の発注に向けた積算・実行管理

業務指導等の必要に応じた支援及びサポートセンターの活動支援と指導協力を行いました。

また、サポートセンターと普及員が林野庁主催森林経営管理リーダー育成研修を受講し、意向調査等演習による制度の有効な実行支援方法を習得しました。

各市町が実施する意向調査により、地域の森林に対する再認識、関心が高まりました。

今後は計画的な意向調査実施とその結果を反映した経営管理権集積計画の作成及び森林整備を実行する市町の取組をサポートセンターと連携し支援してまいります。

林業経営体への支援

意欲と能力のある林業経営体の育成支援

持続可能な森林経営を実現するためには、林業経営体の労働生産性の向上による事業量の拡大と素材生産量の増加による林業專業作業員の所得向上が求められます。

このため、具体的な取組として策定した産地計画をもとに、効率的かつ安定的な林業経営の実現を目指すとともに森林経営の継続性の確保を目指す意欲と能力のある林業経営体等に対し、事業スケジュールの管理や補助事業実施指導により年度計画の作成と約43千㎡の素材生産実行を支援しました(写真1)。



写真1 産地計画素材生産実行支援

人材の育成・確保

人材の確保(新規就業者)の支援

森林資源の循環利用による林業の成長産業化が期待されていますが、林業専門作業員の高齢化、後継者不足が現状の課題となっています。このため、森林整備を推進する上で、新規就業者等担い手の新たな確保支援が必要であることから、各経営体が参加するガイダンス等の説明支援で求人情報提供に向けた個別指導等を行いました。

また、管内の2つの高等学校の生徒約百人に対し林業の課題や就業のための講義を実施して人材育成と確保に務めました(写真2)。



写真2 高校生に対する林業講義

効率的な作業システムと路網による低コスト化

低コスト造林・育林技術の普及

人工林が本格的な利用期を迎え、主伐後の適切な再造林による森林資源の循環利用が必要となっています。このため、路網整備や主伐と一体的に行う再造林及び下刈り経費の個人負担が重荷となることから、低コスト造林・育林技術の支援として、林道路網要望に対する現地検証指導や調査(写真3)等により低コスト化技術の普及を実施しました。



写真3 林道路網要望に対する現地検証指導

ICT等を活用する「スマート林業」の実践

ICT等を活用した安全性向上や省力化等を目指した林業の普及



写真4 木材検収システム情報提供

労働人口の減少による担い手の確保・育成や生産性、労働安全性の向上が重要視されているため、ICT等技術を活用した「スマート林業」の普及指導として、地理空間情報利用技術指導と新たな手法の木材検収システム情報提供や事例説明(写真4)及び事業体の労働安全研修会に講師参加して、安全かつ効果的な伐採技術の指導支援(写真5)を実施しました。



写真5 労働安全研修会での伐木技術指導

今後の取組

林業経営体の効率的な森林整備体制の構築と人材の育成・確保が林業の成長産業化に不可欠であり、森林の多面的機能発揮と持続可能な森林経営のためにも効率的な作業システムの定着を普及し、新たな技術を常に提供、指導する必要があります。

今後も指導区内の林業経営体や市町担当者と連携して森林・林業の状況を十分に捉えた普及活動に取り組んでまいります。

(県央振興局 林業課 深堀惇太郎、黒川和輝、黒岩康博)

安心・安全・スマートな林業に向けて ～定着率の向上と機械化の取組～ (長崎指導区 島原分区)

はじめに

長崎指導区島原分区は、島原市、雲仙市、南島原市の3市を普及活動地域としています。管内の民有林の人工林面積は7,716haあり、雲仙森林組合などの林業事業体が中心となり、森林整備を実施しています。

安心・安心・スマートな林業に向けて、島原振興局が林業事業体や市、各種団体と協力して行った令和5年度の取組についてご紹介します。

担い手の定着率向上

島原半島の林業を支える雲仙森林組合は、令和元年度に産地計画を策定し、複数年分の事業箇所確保により、計画的な森林整備の実行を目指してきました。しかし、林業専門作業員の減少のため、計画どおりの事業実施が難しいという課題がありました。

そんな中、当組合は令和4年度から職員の処遇改善を実施し、有料の求人サイトを活用するなどの新規作業員確保に取り組み、令和5年度に新規作業員が3名採用されました。そこで、島原振興局では、新規作業員と市町林務担当者に向けて、森林・林業教室を開催しました。



林業教室（前期）

前期は「森林・林業の概要」「森林の機能」「各作業の目的(技術面)」「作業システム(搬出間伐)の概要」「労働安全対策」等の森林・林業の基礎的なことについて講義を行いました。

後期は「森林計画制度の概要」や「管内の治山事業の内容」、「県内外のスマート林業への取組」や「木材流通」について学びを深めました。



林業教室（後期）

また、後期(現地研修)では伊万里木材市場を講師に迎え、採材の考え方、トレンドを再確認しました。



林業教室（後期 採材研修）

定着率の向上のためには、安全に対する意識の向上が不可欠です。今年度、島原からは初めて、県の伐木チャンピオンシップへの出場を果たしました。



伐木仲間と現場で練習



ながさき伐木CSへの出場（本番）

また、雲仙森林組合独自の伐木チャンピオンシップも開催され、新人作業員が見事チャンピオンになりました。



伐木CS in雲仙

機械化の取り組み

安全・安心・スマートな林業に向けて、林業普及新規活性化対策事業(県普及協会)を活用し、主伐におけるオール機械化を目指して高性能林業機械のデモ会を開催し、コンラート社ハーベスタによる実証を行いました。1.98haのヒノキ伐倒・集材・造材をハーベスタ1台19日で行い、チェーンソー伐倒を最小限に抑えました。

デモ機の運転をきっかけに、ハーベスタ伐倒の技術を身に付けたことから、次年度以降もリリースでハーベスタ伐倒・造材による皆伐を継続していくこととなりました。

また、次年度以降の機械下刈り実証に向けて、農林技術開発センターと共に地拵え・植栽方法を検討し、電動穴掘り機による植栽を行いました。



デモ会の様子

今後の取組

今後、担い手が世代交代を迎えるにあたって、新規作業員の生産性の向上が、島原の森林整備推進のカギとなっていきます。

定着率の向上と機械化に向けた取組は引き続き継続し、今後は生産性の向上に向けて、どんな事業体に魅力があるのか、そのためにどんなビジョンを掲げたらよいのか、現場の皆さんと共に考えていきたいと思えます。

(島原振興局)

若者から『選ばれる』県北の林業に向けて（県北指導区）



林業が若者から『選ばれる』魅力ある産業となるため、林業の成長産業化の実現を目指して、普及班3名で県北指導区の普及指導活動を行いました。

はじめに

県北指導区は、佐世保市・平戸市・松浦市・佐々町・小値賀町の3市2町を普及活動地域としています。

地域内の森林資源として、私有林面積は40千ha、うち人工林割合は40%の16千ha。

人工林の96%が40年生以上となっており、本格的な利用期を迎えています。

この豊富な森林資源の活用に向けて、管内の林業経営体を中心となり、森林整備（主に搬出間伐）を実施しているところですが、森林整備の担い手となる職員（事務所・現業）の高齢化や離職に伴う人材不足により、最大限活用しきれない現状にあります。

このことから、当指導区での森林整備を推進し、持続可能な林業経営および林業の成長産業化の実現を目指し、当指導区で取り組んだ普及指導活動のうち、以下の2点についてご報告いたします。



1. 林業経営体の育成

<課題>

林業の成長産業化のためには、森林整備の担い手となる林業経営体の育成・強化が必要不可欠であり、各経営体が持続可能な森林経営を実現するための取組を定めた「産地計画」を実行する必要があります。

<取組・成果>

当指導区では、長崎北部森林組合、平戸市森林組合、(株)鶴田林業の3経営体が産地計画を策定しており、この産地計画の確実な実行と目標値として設定した間伐面積、素材生産量、生産性の目標達成に向けて、年間事業スケジュールの作成を支援し、現場進捗管理に基づく実行支援に取り組みました。

これと併せて、現場着手までに必要な段取り等についても進捗管理し、適時支援指導を行った結果、年間を通して現場作業を途切れなく実施できる事務所の体制が出来上がってきました。



また前述の3経営体においては、次期産地計画の策定に向けて、外部の経営コンサルタント等による経営分析や将来ビジョンの構築に取り組んでいるところです。

この取組をきっかけとして、(株)鶴田林業が新たに「意欲と能力のある林業経営体」への選定登録を目指すことになりました。

今後も各経営体のさらなるステップアップを目指して、引き続き支援を行っていきます。



人材の確保の取組としては、若者から就業先として選ばれる経営体となるよう、林業専門作業員の処遇改善や働きやすい組織環境づくりに向けた経営体の取組に対して、外部の経営コンサルタントと共同で検討・支援指導を行いました。また、各経営体におけるハローワーク等での求人手続きへの支援や各種ガイダンスへの参加支援に取り組みました。



2. 人材の育成・確保

<課題>

前項の林業経営体の育成に通じる所がありますが、当指導区における喫緊の課題は、事務所に在籍している若手職員の育成及び若手職員へのベテラン職員の知見・情報・技術の継承と林業専門作業員の新規就業者の確保です。

<取組・成果>

人材の育成の取組として、当指導区内の経営体の若手職員に対しての継続的な学習会の開催、相談対応、現地調査支援等による事務所職員の育成に取り組みました。

その結果、今では多くの業務を遂行出来る職員へ成長されました。今後は組織運営を考えながら主体的に業務を遂行できる職員へステップアップすることを期待しています。

また若手職員を対象とした人材育成の取組を通じ、経営体自体としてもベテラン職員がもつ情報資産の継承の必要性や持続的な組織運営を今一度考え直すよい機会となったところです。



これ以外にも林業への就業のきっかけづくりとして管内の高校での林業教育や間伐体験研修を継続的に実施しています。

今春には2年前の間伐体験研修をきっかけとして、当指導区では初の高校新卒者の新規就業が見込まれるなど活動の成果が現れてきたところです。



今後も引き続き、若者から『選ばれる』魅力ある林業経営体の育成と若者が『選ぶ』きっかけづくりとしての普及指導活動に取り組んでいきます。

最後に

これからも県北指導区の林業が成長産業となるためのビジョンを各経営体や地元関係者・市町と共有しながら、ビジョン実現に向けた普及指導活動に邁進していきます。

(県北振興局 中山・多久・楠葉)

五島市産間伐材の島外出荷に向けた取組 (五島指導区)

五島の現状と課題

五島市と新上五島町からなる五島指導区は、年間で約160haの搬出間伐を行っています。ここ数年、搬出間伐面積は伸び悩んでいます。

また、五島指導区での年間素材生産量は約6,500m³あり、そのうち新上五島町で生産した素材約2,500m³は、ほぼ全量が島外出荷されます。一方、五島市は素材生産量が約4,000m³ありますが、製材用やおが粉用等の島内需要が約3,000m³あり、島外出荷は進んでいません。

五島地区の課題は、“人材の不足”や“素材の販路”、“森林資源の賦存量”等があります。今年はそれらを打開するため、五島市で、需要側から牽引する形でバイオマス用丸太の島外出荷に取り組ましました。

経緯

令和5年5月に五島に縁のある豊田通商(株)グループの豊通エネルギー(株)(以下“豊通E”)から「五島地域での森林循環型バイオマス事業」の提案がありました。

豊通Eは鹿児島県屋久島から鹿児島県本土へのバイオマス用材出荷、新潟県佐渡島から山形県へのチップ用丸太出荷等、離島地域での実績があり、そのノウハウを用いて五島の森林資源を有効活用しようとするものです。



写真1 丸太搬出（フォワーダ運材）



写真2 丸太搬出（トラック運搬）

現地視察や検討会を重ねる中で、令和5年度はトライアルとして、熊本県八代市に向けて750m³のバイオマス用丸太を五島市管内から出荷することになりました。

このトライアルで、五島森林組合は森林整備によるバイオマス用丸太の確保、荷役作業等の実働的な部分を実施し、豊通Eは物流の調整や販路拡大サポートの役割を担いました。

普及員は作業効率化の支援や事業進捗管理を支援しました。

結果、令和6年1月に五島市の丸木港から、約626m³を出荷し、熊本県八代市の木材コンビナートに海上輸送しました。

成果

これまで、五島森林組合は林業公社や市・県等の組織造林が年間の森林整備量の約半分を占めていました。

しかし、今回はしまの間伐促進事業を活用して島外出荷するため、個人有林を中心に森林整備に取り組ましました。結果、個人有林での搬出間伐面積が約2倍、素材生産量は1.8倍となりました(表1)。

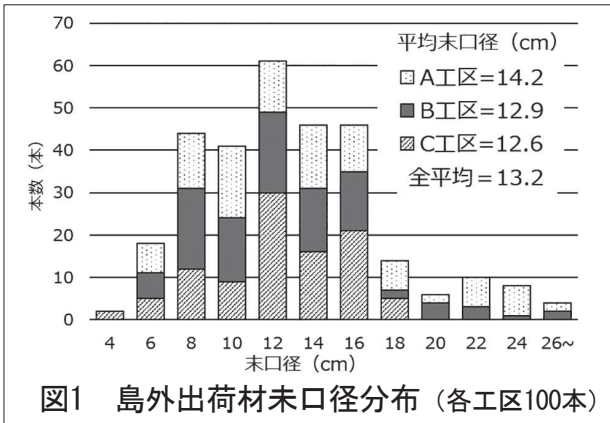
表1 下五島地域での五島森林組合の素材生産実績(個人有林)

年度	搬出間伐面積 (ha)	素材生産量 (m ³)	ha当たり出材量 (m ³ /ha)
R5	51.38	2,649.4	51.6
R4	24.54	1,456.0	59.3

収支は現在分析中ですが、島外から収入を得る新たな販路であるため、森林所有者に説明した施業提案書で示した還元額はこれまでよりも多くなっています。

また、トライアルで搬出間伐に取り組んだ団地での搬出材積は1ha当たり51.6m³と、R4実績より7.7m³/ha少なくなりました。

平均末口径は13cm程度で、建築用材として利用出来る丸太が少なかったためです。特に初回の搬出間伐だったBC工区は、その傾



向が顕著でした(図1)。

しかし、今回のトライアルでは、小径木であっても森林所有者への還元を増やすことができる見込みです。そのような販売先を開拓できたことも成果としてあげられます。

普及員の役割

今回の取組で普及員はドローンを活用した現地の境界確認や、ドローン空撮画像からのオルソ画像を用いた造林補助申請等で作業の効率化の支援を行いました。

結果、次年度、森林組合がドローンを導入する等、その有効性に理解を得ました。

また、年間を通した森林整備の進捗管理はほぼ計画どおり、円滑にできました。現場で作業班員と情報交換する中でも、作業進捗を把握する意識が浸透していると感じます。

さらなる作業の効率化のために、地域にあった林業機械・作業システムが必要だという意見もあり、今後、組合や豊通Eと協力し、検討していきたいと思えます。

今後の課題1 - 港土場の確保 -

今回のトライアルにおいて島外出荷の拡大のために、年間を通した港土場の確保が必須ということが明らかになりました。



今回集積した港土場は、利用できる期間が限られており、出荷者別に档を分けて置く余裕がなかったため、山土場から港土場へのトラック運搬できない期間が発生しました。

そのため、短期間ではありますが、山土場に丸太が滞留してしまいました。

また、丸太を船へ積込むために2日間かかり、係船料やクレーン借上等の経費も倍になることなども今後の検討課題です。

今後の課題2 - 作業道開設の効率化 -

年間を通してみると、作業道の開設延長がその年の搬出間伐の事業量に影響しています。

今年度、五島森林組合は、フェラーバンチャザウルスロボの導入が決まっているため、今後は作業道開設の効率化を目指したオペレータの育成も課題として挙げられます。

今後の課題3 - 人材の確保 -

県全体の課題でもある林業に携わる人材の確保は、五島地域でも大きな課題です。

そのため、人材確保のための林業のPR、新規事業体の参入促進や島外事業体との連携を検討していきます。

最後に

今回のトライアルでは例年以上の森林整備・素材生産を行った作業班員の皆さんが一番の功労者であることは間違いありません。

林業普及指導員も、事業体職員や地元関係者、市町と協力し、ICT技術情報等も活用しながら、快適で儲かる林業・快適で暮らしやすい五島の実現、森林所有者の所得向上を目指して、もっと役に立てるように普及活動に取り組みます。

担い手の確保・育成に向けた取組 (対馬指導区)

はじめに

対馬の林業は、充実した森林資源を有効に利用する時代を迎え、再び対馬の未来への森林づくりのサイクルがスタートしつつあります。そんな林業を担う現場作業員の方は、幅広い年代が活躍していますが、令和5年3月末の作業員114名のうち、年齢構成は40代以上が約4割を超える等、若い世代の作業員確保が課題となっています。

対馬市の人口は、この10年間で約2割減少しています。高齢化と若齢層の島離れにより、林業に限らず、産業を支える労働人口の減少が深刻化しています。

担い手対策の取組

◆就業ガイダンスやお仕事説明会

対馬では、市や県、関係機関が連携して開催する就業・移住希望者向けのガイダンス等に積極的に参加し、担い手の確保を希望する林業事業体を支援しています。

今年は、林業を仕事にしたい方向けの「森林の仕事ガイダンス in ふくおか」や「対馬ぐらし移住・就職相談会」に事業体と一緒に参加し、支援を行いました。

また、将来の職業選択へ繋がるよう中学生向けの「お仕事説明会」に参加し、現場と事務所の両方について、説明を行いました。



◆森林・林業教育

将来、林業を志す人材として中校生や小学生に対し、ふるさと教育の一環で、講義や現地実習を行い、林業への理解と関心を高める森林・林業教育に取り組んでいます。

今年度は、小学校2回、中学校4回を実施しており、近年の森林・林業教育への関心の高まりを感じています。学習会では“記憶に残る体験”を心がけ、間伐の仕組み体感、ドローンの操縦、伐倒作業の見学、高性能林業機械試乗、チップ工場見学等、子供たちのワクワクを第一に取り組んでいます。

他にも、対馬グローバル大学という一般の方にも公開されたオンライン講義で、全国の方々に対馬の森林・林業について、知っていただくことができました。



◆事業体向け事業計画書作成・実行支援

離島振興につながる雇用機会拡充支援事業をはじめとする各種施策等を積極的に活用するため、計画書等の作成・実行支援を行っています。

林業は、担い手の確保や高性能林業機械の導入等、魅力的な補助事業が多い反面、産地計画や労働力確保の改善計画、森林経営計画等、事業に紐づく計画も多くあります。そこで、計画の作成から、進捗管理、実績について、現場巡回や打合せを通して、計画の実行、課題の改善に向けて支援しています。

近年は特に、雇用機会拡充支援事業の相談が多くなっています。申請までの書類作成のアドバイスや、採択後の進捗管理等、現場に事務所に何度も駆け付け、事業が滞りなく進

むよう支援しています。この事業は着実に成果を上げ、毎年2名程度が新たに林業に参入しています。

対馬の林業事業体は大規模から小規模(家族経営・自伐林家)まであり、経営方針も様々です。時には、経営の中にも入り込んで、一緒に将来ビジョンの検討を重ねる等、事業体に合わせた指導を行っています。



◆若者同士の交流

近年、事業体の垣根を超えた若者同士の横のつながりが強くなっているように感じています。交流の場として、対馬林業研究会の活動を支援しています。

対馬林業研究会では、伐採等林業のプロの技で、史跡等の貴重な観光資源を守るボランティア活動を行い、地域に貢献しています。その作業地の検討や、作業後にSNSへのPR等を行い、会の活動を支援しています。

対馬は他地域より林業従事者が多いですが、その分林業事業体の数も多く、他の事業体に所属している方同士では、なかなか交流の機会がありません。そんななか、対馬林業研究会には、さまざまな林業事業体から約40人の会員が集まっており、活動しながらはもちろん、お昼休みや休憩時間にもお互いの近況を話し、情報交換をしています。林業に関心のある仲間と一緒に活動し、同じ悩みや思いを持つ方々が交流する時間は、会員のみならず、とても貴重なものになっています。

林業分野における若者層や、U・Iターン者等、林業を志す人材も徐々に増えつつあるなかで、横のつながりの架橋的な存在である対馬林業研究会を今後も支援していきます。



◆安全対策

貴重な“人財”を守るため、安全意識の向上に向けた取組を行っています。

長崎県では、安全向上を目的に「ながさき伐木チャンピオンシップ」が開催され、今年度対馬からは4名が参加しました。離島地域は、本土で開催される出場者が一堂に会する練習会への参加が難しいため、壱岐と合同、対馬単独で練習会を開催しました。選手の皆さんには、練習を何度も重ねていただき、安全性・正確性・スピードの技術が格段に高まりました。惜しくも入賞はなりませんでした。大会当日は対馬林業関係者が応援に駆け付け、対馬林業業界として安全意識向上に繋がりました。

また、今後伐木練習機が初めて対馬に上陸し、林業女子を対象とした安全講習会を企画しています。対馬の林業を担う作業員のみならず、安心して作業を行っていただくよう取り組んでいます。



今後の取組

地域の将来を守るためには、若者の定住や島での働き方の多様化が必要であり、「林業の定着率向上」と「U・Iターン者の島暮らし」といった課題に対し、地域住民や市や県、関係機関と協力しながら取り組んでいきます。

(対馬振興局 林業課)

普及員特集

令和5年度林業普及指導員活動報告について

長崎県では、「林業事業体及び林業専門作業員育成プログラム」を令和4年度に策定し、令和5年6月29日に同プログラム策定委員会シンポジウムを開催し、同プログラムを周知するとともに、10年後の将来像、人材が集まり定着する魅力ある林業事業体の実現へ決意を新たにしたところです。

人材の確保・育成には県内の技術者による講師が不可欠、ということで、長崎南部森林組合諫早支所のフォレストリーダー 岩中政士さんには伐倒練習機を使用してフォレストワーカー等の経験の浅い人向けに伐倒の基礎技術を習得する研修やフォレストリーダー等の指導者向けの研修を実施していただきました。

また、壱岐市森林組合の作業班長 岡田直さんには福岡・長崎合同の林業就業セミナー&相談会 in東京でゲストスピーカーを務めていただき林業移住のお話やトークショーに登壇していただきました。

今月号の長崎の林業では、令和5年度の普及員の活動報告特集号として各地域の普及員が林業経営体の育成支援、担い手の確

保・育成の支援、スマート林業の推進など県内各地の課題解決に向けた取組を掲載しています。

魅力ある林業の実現に向けて今後の普及員の活動にご期待ください。

(林政課 普及指導班)



長崎の林業 3月号 第817号
 編集・発行 長崎県林政課
 住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
 電話：095-895-2988
 ファクシミリ：095-895-2596
 メールアドレス：
 s07090@pref.nagasaki.lg.jp

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和6年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	23,100	普通	多い	多い
	16～18	小曲り	21,800	普通	多い	多い
	20～22	直	20,900	普通	多い	多い
	20～22	小曲り	19,500	普通	多い	多い
	24～28	直・小曲り	22,000 ～20,000	普通	多い	多い

【スギ】

令和6年2月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,500	普通	多い	多い
	16～22	小曲り	13,500	普通	多い	多い
	24～28	直	15,500	普通	多い	多い
	24～28	小曲り	13,500	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで